

## 平成27年度第1回 富士見市いじめ問題対策連絡協議会会議録要旨

**<日時>** 平成27年8月5日(水) 午後1時30分～3時00分

**<開催場所>** 市役所 市長公室

**<出欠状況>**

藤田	川端	児玉	寺島	戸塚	熊谷	原沢
○	○	○	○	○	○	○
山中	関野	亀卦川	大原	田中	根本	岩田
○	欠席	○	○	○	○	○
山口						
○						

**<事務局>**

子育て支援課長 学校教育課長 子育て支援課副課長

**<傍聴人>** 1名

**<次第>**

1 開 会
2 委員自己紹介
3 いじめ問題対策連絡協議会の役割について
4 会長及び副会長選出
5 議 題 (協議事項)
(1) 富士見市いじめ防止条例・いじめ防止基本方針について
(2) 富士見市立小学校・中学校・特別支援学校のいじめの実態について
(3) 富士見市いじめ防止サポーター制度について
6 事務連絡
7 閉 会

**<議事>**

- 1 開 会 子育て支援課長
- 2 委員自己紹介 各自
- 3 いじめ問題対策連絡協議会の役割について  
事務局より説明
- 4 会長及び副会長選出  
会長 藤田委員  
副会長 山中委員

(協議事項)

- (1) 富士見市いじめ防止条例・いじめ防止基本方針について

事務局より説明

【会 長】事務局の説明に対して、何かご意見ご質問がありますか。

【委 員】基本方針(P14)にある重大事態発生時の対応というのは、すばら

しいと思います。こういうことがなされていなかったから、この間のような事件になったと思います。

【委員】富士見市いじめ調査委員会ですが、どういう方がおなりになっているのですか。

【事務局】いじめ調査委員会は5人。弁護士、精神科医、臨床心理士、教育学の大学教授、元市の職員で児童福祉専門の方をお願いしています。

【委員】保護者の責務（資料3のP10）の②の子どもの絆を深めるという項目で「子どもを認め、褒め、励ますなど、あたたかい言葉をかけ…」とありますが、抽象的でわかりにくいと思います。子どもたちには、おはようとかいってらっしゃい、おかえりなさい、何かあったらありがとう、助かるわとかそういう短い文章、言葉というのがすごく大事だと思います。そういう話をする、家庭の中で家族で挨拶なんてという方もいらっしゃるようですが、こういうところから人と人とのコミュニケーションの取り方がわかって訓練されるものだと思います。

【事務局】今のご意見、非常に大事な部分だと思います。見直しの時点とか、これを各学校の基本方針に勧める時の説明に入れさせていただければと思います。改定する際にはしっかりと対応していきたいと思います。

(2) 富士見市立小学校・中学校・特別支援学校のいじめの実態について  
事務局より説明 意見無し

(3) 富士見市いじめ防止サポーター制度について  
事務局より説明

【委員】子どもたちが通る場所に貼っておきたいと思うので、「いじめをなくそう！」のポスターは、一般の家庭でもいただけますか。

【事務局】子育て支援課にありますので、お渡しできます。

【会長】議題全体を通してご意見等がありましたらお願いします。

【委員】東北の事件ですが、先生同士で問題が共有されていないというのが新聞を読んだだけでよくわかりますね。お忙しいですから、なかなか時間もないかもしれませんが、何かが起こった時だけでなく、日常的話も皆で共有できるような、先生方の交流が大事ではないかと思います。

【委員】いじめに関しては、私たちは教育委員会の指導のもと学校代表（生徒指導主任）が集まって、今の県、国の情報、それから市の実態、色々なところを色々な角度から見て話し合い、それを各学校に戻してアンケートしたりして実態を把握しています。それから、いじめの撲滅会議が今年3回目になり、子どもたちが一生懸命考えて実現している、とても中身のあつぱらしい会議だと思っています。その会議に出た児童の代表が、今度は学校でその報告をして掲示物を作り、あるクラスでは掲示物の前に全員集めて、それを見ながら考えていくとかそんなことにも取り組んでいます。なるべく色々なことを組織として取り組むようにしていますし、東北

の悲しいニュースがあった時には、新聞記事を全職員に配って、当事者だったらどのように解決していこうとということを職員全体で考えました。職員は問題を抱え込まずに共有し、いじめを解消できるようにしていくことが大事だと思っています。

【委員】私も新聞記事の生活記録ノートの写真が出た時にはショックを受けたと同時に、これはないなという印象を受けました。いじめに関して情報を共有することは先生方もわかっていることなんでしょうけれども、よくわかっているでもできなかったというのは、職場の雰囲気肝心ののだと思います。中学校では学期に一回いじめアンケートがあります。回収したその場で全員が見ますので、即その場で体制を取れば、その教員まかせにすることは防げるのではないかと思います。富士見市の校長会では、学校の取り組みを校長同士が共通に理解し合いながら、進めていくことが大事だと思っています。

【委員】保護者の責務の件ですけれど、一番の根本は両親の関わりだと思うんです。お父さん、お母さんの思いやり、日常的な行動が一番のネックだと思います。親の日常生活のあり方、生活の仕方、日々の生活の対応というのが子どもの心に一番響くと思います。子どもと接する中で子どもの心の育ちがあると思いますので、ぜひ親の責務を強調して欲しいと思います。

【委員】だいぶ前の資料ですが、家庭生活について書かれた資料で、私はこれを使って時々お話するのですが、こういうものは、発刊したら終わりではなく、さまざまなシーンで資料を使って働きかけをしていくことが大事なことだと思います。今、青少年育成推進員さんが「毎月第3日曜日は家庭の日」の普及に取り組んでいますが、あちこちにそのポスターが貼ってあるというのも啓発にはいいと思います。

【委員】青少年育成推進員の会として、昨年度から取り組んでおります。学校の協力を得てポスターコンクールを開催し、実際に子どもの作品でポスターを作成しています。今回はこのいじめ防止サポーターに団体として登録し、学校と連携しながら活動していきたいと思っています。

【委員】保護者が気軽に学校へ行くことができ、先生方といろいろな話ができたらいいのかとも思います。

【会長】学校との情報交換というのは非常に大事なことだと思います。

【委員】学校応援団というのがあって、読み聞かせに行っています。意外と色々な方が集まっているのがわかりました。もっと大きな範囲で保護者だけでなく地域にも、「学校応援団こんなことがありますよ、やってみませんか」という情報発信をしてもいいんじゃないかなと思います。

【委員】少し話が戻りますが、今いじめというものが富士見市に存在するのでしょうか？いじめをする子どもというのは、いじめをすることが悪いことだと思っているのでしょうか。先生方がご覧になってどうでしょうか？

【委員】本校でもいじめはあります。学級担任の方で把握した時に、例えば

A君がB君の悪口を言ったけど、A君としてはあまりその意識がない。言われた方がいじめとと思っている以上、私たちは両方から話を聞きます。A君に「その言葉とか態度がいじめなんだよ」と話をしてわからせる。お互いに「こんなところが嫌だった、もっとこうしていかなくちゃいけない」そんなところを確認して、簡単に終わる場合もあるし、高学年になればなるほど色んなケースが出てくると思います。先ほどのお話にあったように、あまり自分がわかっていないで、繰り返している子どもたちの方が多いです。それが「言われている方としてはとっても嫌なんだよ、それはいじめって思われるかもしれないよね」ということで、子どもたちに指導しています。

【委員】親御さんによっては、なかなか理解していただけない方もいるのですが、子どもを中心に考えていくことが必要ですね。

【委員】必ず学校で起こったことについては保護者に連絡します。学校でこういうことがありました。それが電話だったり学校に来ていただいたり、場合によっては家庭訪問したりして、幸いそういうことを起こした方もわかっていなかった、教えていただいてよかったというケースの方が多いです。きちんと指導して確認をした上で、保護者に伝えて、保護者と学校が両輪で子どもを育てていく。そこに地域があって、色んな関係の方から情報を集めながら、子どもを指導していくのが一番かなと思います。

応援団については、各学校で募集をかけます。例えば登下校の見守りとか学習支援、一緒に子どもたちと遊んでもらったり昔話をしてもらったり、昔の遊びをしてもらったり、ミシンがけのお手伝いしてもらったり、学校で今、こんなことが必要ですということをお願いしています。教育委員会で立派なリーフレットを作っています。各学校の応援団の取り組み内容や、応援団とはどういうものかということがわかるようになっています。

【会長】全体をとおして、保護者の関わりですとか学校との情報交換等、多岐にわたってご意見いただきましたが、ここで議事は閉じさせていただきます。

## 6. 事務連絡

## 7. 閉会 副会長